

1/20. 11. 15(土) 朝日

特待生採用 330校確認

高野連 来年度 101校は保留

日本高校野球連盟（脇村春夫会長）は14日、来年度の野球特待生の採用予定校数を発表した。全国の都道府県高野連を通じて申告してきた学校数は433校。このうち、採用する際の条件がクリアされた「適正確認校」330校の学校名が公表された。日程の関係などで確認作業が遅れている関東地区（東京都を除く）など101校は「保留

校」として校名公表は見送られた。また、2校は経済的理由が条件に付されていたため、今回の野球特待生には当たらぬとして対象外となった。18面に関係記事「適正確認校」は、①採用予定人数②学業および生活態度も重視する③所属中学校長の推薦書が必要、の3点が募集要項などで確認できた学校。330校のうち、昨年5

月に当時は違反だった「野球特待生」を採用していたと申告した学校は249校で、新たに制度を設けた学校が8校だった。駒大苫小牧（北海道）、帝京（東京）、常葉菊川（静岡）、沖縄尚学などが昨年に続いて申告し、大阪桐蔭、明德義塾（高知）などが新たに申し出た。採用予定人数は明らかにされていないが、日本高野連によると、ほ

とんどの学校がガイドラインにある「5人以下」という。第2次公表は27日の予定。2回に分けた理由について、日本高野連の小森年展・事務局長は「進路選択の時期も迫っており、現時点で確認できた学校を先に公にすることが必要と判断した」と説明した。日本高野連は野球特待生制度を認めていなかったが、昨年、同連盟が諮問した有識者会議（堀田力座長）の答申を受け、条件つきで認めることになった。来年度から3年間を試行期間とし、実態を調査した上で最終判断をするとしている。今回の第1回調査は9月末に申告期限が設けられたが、確認作業に時間がかかり公表が遅れた。とくに関東は地区大会が今月5日までであったことなどから、今回の発表は見送られた。